



# WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会報

No.33 October 10, 2012

ジョークの心得三か条: 1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。

2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。

3. ジョークは簡潔が至上です。

## ジョークと私

### 猛暑をジョークで乗り切った私

岡田

茂富

To enjoy himself with English jokes as long as he can live, he joined our Joke-Loving Club. Now six months have passed since then but he finds to his surprise he is in the pink of health every day reading English jokes and laughing loud. His doctor says, "Unbelievable! This really is a miracle of the century."

これは今私が作成したジョークの原稿です。英語のジョークは、

1. 頭を使う。ただし、私のように頭がおかしくなることもあるかもしれませんが、きっとそのほうが長生きすることでしょう。(それに、読んでいてわからないジョークはごまんとありますからね)

2. 多重多面思考が発達し、行くところ敵なしとなる。単純思考で悲観なんかしくなるのです。

3. 世の中、適当に考えて、ストレスがたまらなくなる。さらに食欲も性欲も旺盛になる(ホントかな)。いいことはみんな信じて、わるいことはみんな忘れる。

これで長生きしないなんて、ありえないと思います。そう、秘密はここにあったのです。さあ皆さん、英語のジョークを讀んでぜひ長生きしましょう。

(写真: 鎌倉円覚寺で観梅時)



敬老の日にわが編集局長佐川さんから、上記の題で何か書けとお達しを受けました。どうやら、前代未聞のくそ暑い日が続くなか(今夏はエアコンをつけな

い方針を私は遵守しています)、「ジョーク宅配」の原稿を120個完成させて彼に送ったので、きつと何かみんなの役に立つ秘密があるに違いない、隠し立てして後で後悔しないように公開しろ、ということのようです。はあ、そうかい、とあいかわらずの安請け合い。

他にも執筆者の先生がいらっしゃいますので、月1回私のジョークが発表されるものとして、約10年分の原稿を作成して送ったこととなります。何の役にも立たないことに、夢中になって家のことをいっさい顧みない私を見て、頭がおかしくなったに違いないと賢明にも女房は、私を診断しました。

私はといえば、自分の深層心理を分析して、これは私のジョークの原稿が全部発表されるまで、ということは何となく84歳まで生きてやろうという密かな願望に基づくものだと真相を喝破しました。

A man was told by his noted doctor that he would live only three more months due to his terminal stomach cancer.

### 第 33 回 研究発表会

## ウソから出たマコト

— 間違いの持つ創造力 —

佐川 光徳

幼い頃に They have slain the Earl Amurray, and Lady Mondegreen. という言葉を目にしたアメリカの女性作家が、長いこと Mondegreen って何だろうと疑問に思ってきた。大人になつたある日、それは... laid him on the green の聞き間違いだと気が付いた。

童謡「ふるさと」の中の「うさぎ美味しい蚊の山」が、「うさぎ追ひし彼の山」だと後から分かつて、幼年期の誤解に付きまとうユーモアについてそう捨てがたい懐かしさが感じられる。

こうした偶然の間違いが生んだ面白さに着目して意図的に間違いを作り出せば、新しいユーモアを創造する道が開けてくる。原型を絶対視することなく、そこからの逸脱にもう一つの価値を見出すのが、ジョーク愛好者の資質だろう。

意図的に「変形」を作るには、「原形」に少しだけ手を加えればよい。すると、変形を耳にした者は、その背後に原形を意識するという高度な行為が起こる。和歌の「本歌取り」や「狂歌」、「パロディ」や「もじり」はその一例である。過去のジョーク・コンテストの出品目録から傑作のいくつかを取り出してみよう。

・ To err is human, to forgive is not company policy. < To err is human, to forgive divine.

・ If April showers bring May flowers, what do May Flowers bring?

< April showers bring (forth) May flowers.

・ They lived happily until they got married.

< And they lived happily ever after.

・ You can't teach an old mouse new clicks.

< An old dog will learn no new tricks.

・ Our deep love ripened into friendship.

< Our deep friendship ripened to love.

・ He, who laughs last, thinks slowest.

< He laughs best that laughs last.

・ Smoking shortens your cigarettes.

< Smoking shortens your life.

最近、絵画の世界では、とんだ Mondegreen 現象が起こった。スペインのある教会で、19 世紀に描かれたキリスト像の傷みが進んで来たため、画家の孫に当たる 80 歳の女性 (修復人としては素人) に修復を依頼した。



(左=原画、中央=修復前、右=修復後)

この似ても似つかぬ修復画に、教会側は契約違反だと息巻いたが、それがかえって人気をあげて、会堂は押すな押すなの大盛況。修復された像をプリントしたグッズまで作られて、今度は修復者が著作権料を要求する始末。これぞ、「ウソから出たマコト」ではないか。

### 第 33 回 研究発表会

## ジョーク・コンテスト MC の記

長谷川 真弓

マキキュリールームでの最後のジョーク・コンテスト。今回は 40 ワード以内というルール。したがってパンチラインに至るふくらみの面白さが特徴だった。エントリーは全部で 16。いつものことだが、作品ごとにどんびしやりの写真やイラストを選択してくださる佐川さんのご才能にも感動する。実はそれを拝見するのも私の楽しみの一つでもある。まずは優秀作品からご紹介しよう。

■ 第 1 位 10 票 (小池 温)

Some people ask the secret of our long marriage. We take time to go to a restaurant two times a week. A little candlelight, dinner, soft music and dancing. She goes Tuesdays, I go Fridays.

これはスクリーンに紹介されるなり爆笑となった。最後でどんでん返しとなる部分が小気

味よい。なかなか危ない橋を渡りつつも、これが夫婦の長続きの秘訣かと。

■ 第2位 6票 (植田良明)

The car in which the elderly couple was riding went over the cliff. It was an awful wreck. "Where am I?" moaned the woman when she opened her eyes. "In heaven?" "No," said her dazed husband, "I'm still with you."

崖から車ごと落ちこちて天国に落ちやったのかと思いきやさにあらず。「そんな訳ないだろ。まだおれと一緒にだから」。なるほど自覚のある旦那様だ。

■ 第3位 6票 (相原悦夫)

A woman asks the man who is travelling with six children, "Are all these kids yours?" The man replies, "No, I work in a condom factory and these are customer complaints."

なかなか責任感の強い会社にお勤めの方である。不良品の出るたびに子どもの数が増えて団体旅行となることだろう。PL法をどことん突き詰めるところなるか。

■ 次は5票を獲得した作品 (豊田一男)

When the little boy at the checkout counter was asked why he wanted to buy tampons, he said, "Because on the packet it says you can swim, play tennis and go bungee jumping, and I can't do any of them."

不得意な水泳もテニスもバンジージャンプもできるようになるなんて！不得意な子なら説明書を読めば確かに買いたくなるに違いない。子供の素直な理解と、成人専用グッズのずれの面白さでついグツツ！

■ 4票を獲得したシオナルド(新堂睦子)

Leonardo as comedian  
It was asked of a painter why, since he made such beautiful figures, which were but dead things, his children were so ugly; to which the painter replied that he made his pictures by day, and his children by night.

昼間ふるった筆はみごとな作品となったが子どもたちは夜の「筆」による作品だからね。今回は**タイムリーな北朝鮮トピック (岡田茂富)**も登場した。

North Korean leader Kim John-un is so smart that he will open his country and accept the return home of all Japanese abductees. Blessed are those who believe in the cracked joke, for they will be saved.

「幸いなるかな-----彼らは救われるであろう」という聖書の山上の説教と重なる。最後の部分がびしょと引き締める辛ロジョークだ。

時事ネタとしてのオリピック (長谷川真弓)

Though the Olympics take place during Ramadan, some Muslim athletes said they wouldn't fast during games, for in Rome you do as the Romans do. Then, after sampling the British food, they said fasting proved to be a good idea.

イギリスの食事はまずい、ラマダンでは全面断食という Preconception の中ではジョークとして成り立つが、それは浅薄。美味の世界もあり、日没後のまとめ食いもなりとなる？のコメントあり。

See you in the 14<sup>th</sup> Joke Contest!

【書評】

続々・往事渺茫

—私の昔語り (3) —

宮本倫好 著

(水産社・953円＋税)

評者：草野 淳



「天井のしみをみつめながら頭の引き出しの中からおぼろげな記憶を引き出した」と筆者自らことわっているように、これは彼の人生80年の渺茫たる往時の回想記である。

半生にも及ぶ新聞記者生活と、晩年の大学教授の日々を通じた、豊かな識見とユニークな体

験を自在に織り交ぜた軽妙・洒脱なエッセイで、長年物を書きなれたライターらしい味と香りに満ちた作品だ。「干からびた脳みそをかき回すような、遠くかすんだ昔話」とご本人は謙遜しているが、どうしてどうして、充実したゲームと正確な事実裏打ちされた実話の数々は、湧き溢れる泉のようである。

エッセイには書き手の人間性が丸出しになつてしまふ、と言われるが、本書にも筆者持ち味の、笑いが止まらなくなるようなユーモア心と、それでいて人間を見つめる時の筆者の心暖かさがじんわりとにじみ出ている、爽やかな感動と哀切の余韻を残してくれる。

しかも、そうしたユーモアと人間愛で柔らかなく包み込みながら、ずばり世相を斬り、返す刃で異文化を語る時の、鋭い批判精神と幅と興場の表も裏も駆け回ったかつての社会部記者、そしてロンポン・ニューヨークの両特派員を経験した国際通ならではの筆力だ。

「女難はあった！」とわが身を淡々と語るくだりには「えっ、そこまでよく言えた！」と身近な一読者としては衝撃的な驚きを受け、肩をゆすって笑ってしまった。かと思うと、寒々としたおのが頭皮を気に病んで、内心ひそかに白髪フサフサ派へのコンプレックスを抱いている、と告白するあたりは、日頃毒舌を持つて鳴らすご本人を知る人には、意外に弱気な一面に触れたようで笑いを誘われる。

艶もの話も随所にちりばめられていて、生々しい男女の機微から、はては高齢女性のためのバイアグラ讃歌まであって、笑いが止まらない。そんなふざけた筆者だが、故郷の紀南を語る時は限りなく優しく生真面目になる。万人老いるとふるさと回帰になるものだが、彼がこれほどに故郷とその人々を愛し、そのような深い愛着と望郷の情を余生に抱き続けている男だと知って、東京生まれの私は羨ましくてならない。

本の中味はこれくらいにして、あとは皆さん、読んでからのお楽しみだ。最終章に並ぶ辛口の時局コラムも、本編に添えられた小曲集のように読ませる。

追記：JJCの皆さまには1冊700円に割り引きしてくれる(当然のこと＝評者注) だそうです。

## !! 会場が変わります!!

### 第34回研究発表会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

● 日時：11月17日(土)

13:45~16:00

● 会場：日本近代文学館(2階会議室)

(東京都目黒区駒場4-3-55、駒場公園内)

電話：03-3468-4181)

● 交通：京王井の頭線「駒場東大前」駅(渋谷駅から二つ目)徒歩7分。

地図は、「日本近代文学館」のHPをご検索ください。

● プログラム

① 館内ツアー

② トークショー「下手なジョークも数撃ちや当たる—我が青春のニューヨーク」

宮本倫好 会員×草野淳 会員

③ 第14回ジョーク・コンテスト

司会=安藤雅彦 会員

● 参加費：会員・非会員とも1,000円。

● 研究発表会終了後、近くの喫茶店で交流会を開きます。こちらにも、どうぞご参加ください。

● 問合せ先：[renraku@eigojoker.com](mailto:renraku@eigojoker.com)

### 第14回ジョーク・コンテスト出品募集

● 要領：

1. 出題は、お一人一題とします。
  2. 長さは、**20 WORDS 以上、40 WORDS 以下**とします。
  3. 必要と思われる場合には、イラスト・写真などを添付してください。
  4. コンテストは、**2012年11月17日(土)**の研究発表会で行われます。なお、今回より運営の仕方がVERSION UP されます。乞う御期待。
  5. 結果は *We, Jokers* No.34 Joke Contest Supplement 紙上でも発表されます。
- 宛先：[mmsgawawa403@s6.dion.ne.jp](mailto:mmsgawawa403@s6.dion.ne.jp)
- 締め切り：**2012年11月4日(日)**

WE, JOKERS No.33

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

発行日：2012年10月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

問合せ先：[renraku@eigojoker.com](mailto:renraku@eigojoker.com)